

区

小学校

先生

横浜市小学校社会科研究会

6 学年部会

研修会記録

第6号

令和元年

12月4日

横浜市小学校教育研究会

会長 榮 秀 之

横浜市小学校社会科研究会

会長 新 井 篤 志

同 学年部長 杉 本 敬 之

【提案日時】

10月 30日 (水)

提案 平本 美峰 先生 (山元 小)

【会 場】

横浜市立丸山台小学校

司会 本間 宏志 先生 (末吉 小)

記録 杉内 翔太 先生 (大豆戸小)

1、前回の指導案検討からの変更点について

- 単元を見通す学習問題の主語が「日本」から「明治政府」へ
→単元を通して「明治政府の立場」で考えることができると考えたから。
- 本時の前段が「工女が働きに行くことに納得できるか」から「募集に応じるか」の話合いへ
→切実感をもって「本気で考える」ことができると考えたから。

2、本時の流れについて

- 資料について (・は本時までの資料、◎は本時の資料、□は参観者から提案された資料)
 - 1870年の各国 (日本、フランス、アメリカなど) のGDP→国力の差を「数値」で読み取る。
 - 長野県から富岡製紙場へ行った工女の名簿→「年齢が近い」こと (11歳~20歳前後) 身分のこと
 - 生糸ができるまで (作業の工程) →「一等工女の役割の大きさ」や能力給だったこと
 - 和田英さん年表→工女になれた喜びや「指導者となり地方へ技術を広げたこと」などを読み取る。
→明治政府の意図を読み取れるので、年表を半分に分けて本時で見せるとよいのではないか。
- ◎政府の工女の募集要項→勤務内容や「労働環境」、「対象年齢」などを読み取る。
→先に政治単元を学習している経験を生かして、「現在と比較」できたらよいのではないか。
→「当時の若い女性の社会的な立場を理解」しておかなければ、待遇のよさは読み取れない。
- 生糸の生産量の推移 (世界一になるまで) →「富岡製紙場の役割の大きさ」や政府の意図など。

○本時の前段と後段で主語が「自分」から「明治政府」に変わることについて

- 前段での話合いで「葛藤」(応じるか応じないか)があれば、明治政府の意図までたどり着けるか。
- 「明治政府中心の単元構成」で学習を進めているので、立ち返ることができるのではないか。

<鶴飼先生より>

- その当時の若い女性の社会的な立場 (家業を継いだり、農業に従事したりすることが一般的だったこと) を理解しておかなければ、「官営」としての待遇のよさを感じることはできない。
- なぜ明治政府は「若い女性」にこだわったのか考えておくことが大切。
- 子どもたちの本気を考えるのであれば、主語は「自分」の方が考えやすいが、教師として考えさせたいのは「明治政府」としての考えだから難しい。しかし、ぐるぐる回るこの話合いに意味がある。

文責 杉内 翔太 (大豆戸 小学校)

発 関口 暁之 (永谷 小学校)